

プログラム正式名称、① 実施期間 ② 主催、共催団体名 ③ 開催場所 ④ 参加国、参加者数 ⑤ 内容

主催プログラム

平成21年度無形文化遺産保護

パートナーシッププログラム

第三回無形文化遺産保護のための集団研修

- ① 7月15日～22日 ② ACCU、文化庁
 ③ 京都、大阪、奈良
 ④ ブータン、カンボジア、インド、インドネシア、イラン、キルギスタン、モンゴル、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、スリランカ、タイ、ウズベキスタン、ベトナム計14カ国から28名
 ⑤ 詳細本誌p.8

アジア太平洋ESD教育者フォーラム

- ① 8月22日～24日 ② ACCU
 ③ 東京（新宿・京王プラザホテル）
 ④ 日本からACCU関係者151名、海外から22名
 ⑤ ESDを実践しているアジア太平洋地域の教育者たちが、実践事例や成果を共有し、「方法論」「実践評価」「EFAとESDの連携の可能性」の3つのテーマに関して意見交換を行い、理解を深めた。会議の最後には、今後参加者達が実践をより良くしていくための「東京HOPE宣言」を採択した。

韓国政府日本教職員招へいプログラム

- ① 8月26日～9月4日
 ② ACCU、韓国ユネスコ国内委員会
 ③ 韓国（ソウル、統営、安東、釜山）
 ④ 日本から教職員等53名
 ⑤ 詳細本誌p.10

ユネスコ・スクールにおける「持続可能な発展のための教育(ESD)」の実践を学ぶ教職員交流プログラム

- ① 9月20日～27日
 ② ACCU、The International Programme office for Education and Training（スウェーデン教育研究省内）
 ③ スウェーデン（ストックホルム、マルメ）
 ④ 日本からユネスコ・スクールの教職員等11名
 ⑤ 環境教育と特別ニーズ教育に焦点を当て、関連する教育機関及び学校・NPO等の現場を訪問し、スウェーデンにおける具体的事例を学んだ。北歐9カ国のユネスコ・スクールが参加する「バルト海プロジェクト」参加校からは、複数国による環境教育地域プログラムについて説明を受け、昨年大阪で開催された高校生会議（大阪ASPネット主催）のスウェーデンからの参加校では、参加した日本教員が事後活動報告を行い、継続的な国際交流の成果を示すことができた。

共催・協力プログラム

世界遺産出前～高座！

- ① 7月4日
 ② ACCU、文化遺産保存のための映像記録協会
 ③ 奈良県
 ④ 田原小中学校の教員・生徒、及び保護者約150名
 ⑤ 加藤山崎教育基金の助成により、プロの落語家が教育現場を訪問し、世界遺産の大切さを語る高座を開催した。それにより世界遺産の大切さを語り、また地域遺産の大切さを子どもたちと再確認することができた。

ACCUアジア太平洋ESDフォトメッセージ写真展「伝えたいもの—無形文化遺産」

- ① 7月25日
 ② 岡山県国際団体協議会(COINN)
 ③ 岡山国際交流センター ④ 来場者150人
 ⑤ 「地球市民フェスティバルおやかま2009」の共催行事として、また標記写真展の国内巡回展示会の一環として写真展を開催し、一般の方々のESDや平和と文化のつながりに関する関心・理解を深めた。

第24回日本国際保健医療学会学術大会

- ① 8月3日～8日
 ② ACCU、第24回日本国際保健医療学会学術大会準備委員会 ③ 宮城
 ④ フィリピン、インドネシア、タイ、オーストラリアから5名
 ⑤ 「なぜ私たちは世界の人々に関心があるのか」をテーマに、日本国際保健医療学会学術大会へ海外から専門家を招へいし、グローバルな視点を共有した。シンポジウムなどを通じて世界各地で進められている様々な保健医療活動について情報を交換するとともに、途上国および国際協力が直面する重要課題について知識・認識を共有した。それにより、持続可能な開発の実現に向けてそれぞれの立場と役割を生かした“Think globally, act locally”の共通理解を促進することができた。

世界遺産と観光

- ① 9月11日～15日 ② ACCU、奈良教育大学
 ③ 大阪、奈良、京都
 ④ インド、インドネシア、中国、韓国から20名（各国5名ずつ）
 ⑤ 日本や参加各国の世界遺産の現状、観光をめぐる問題点の報告と、世界遺産の保護・保全と観光のあり方について討議を行うと共に、奈良・京都の世界遺産保護の現場の視察を行った。それにより、参加者の間では世界遺産保護・保全を具体的な行動としたESDの展開、日本を含むアジアの世界遺産の現状の認識と世界遺産の価値の共通理解が促進された。さらには、世界遺産と観光のあり方、観光によるリスクの回避への手法等について、共通認識を深めることができた。

アジアにおける「持続可能な開発のための教育」ネットワーク構築

- ① 9月29日～10月4日
 ② ACCU、秋田大学、金沢大学
 ③ 東京、石川
 ④ インドネシア、タイ、マレーシア、パキスタン、フィリピンから9名

- ⑤ 東京においては、日本を含むアジア6カ国の大学・学術機関における専門家と、ESD活動を展開しているNGO・NPO関係者との間でワークショップを行い、石川県では国連大学高等研究所里山プロジェクトの取り組み等の現場視察を行った。学術レベルの専門家と現場レベルでの専門家同士の意見交換やワークショップを通して、海外からの参加者たちは、自国でのESD普及・促進のための実践活動及び研究等に活かせる具体的アイデアを得ることができた。

来訪者（敬称略）

9月2日 徳島県知事 飯泉嘉門氏（写真左）。

徳島県知事の飯泉嘉門氏が佐藤理事長を表敬し、ACCUとの文化遺産事業の協力関係について話し合った。



新規維持会員（敬称略）

内野 美世子
株式会社東進 東進ゼミナール

寄附者（敬称略・順不同）

舞木 亮三、白石 勝

お詫びと訂正 //////////////////////////////////////
 ACCUニュース374号P.12の「ゆめいろのバレットIV」お知らせの記事中、表記に誤りがありました。
 誤)の間コンクール → 正)野間コンクール
 お詫びして訂正致します。

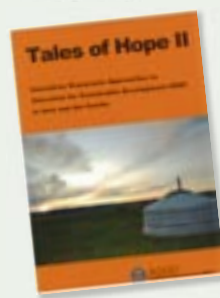
表紙写真

「灯籠流し」
 ©Chokchai Patinyamas (タイ)

フォトメッセージ

ロイ・クラトン(灯籠流し祭)に来たことがない人は、なぜ灯籠は列になって流れていくのか、ターク県民が紐を通して灯籠の列を作っているのか不思議に思うかもしれません。実は、この時期ターク県を貫流しているピン川では、水底で砂の脈ができて水脈が引かれるので、灯籠を流すと、列になっていくのです。岸から椰子殻で作られた灯籠を流すと、そういった水脈に沿って流れていくので、ナーガ(ヘビ神)がゆっくりと遊泳しているように美しく見えます。灯籠を列になるよう流すには、いわゆる追いかけの灯籠を流すことが大事です。美しい列になって流れていくように、一定のペースで流していくことが重要なのです。

Topic



Tales of Hope II 刊行

アジア太平洋のESD(持続発展教育)実践を評価し、好事例集としてまとめました。

HOPE評価手法とは評価そのものが当事者と外側にいる人両方にとって共通の学びとなり、全ての関係者に希望とエンパワメントをもたらすことを目指す評価手法です(詳細は、ACCUニュース370号、371号)。HOPE評価手法を使って行われたアジア太平洋7カ国のESD実践評価の結果が、このほど読み物としてまとめられました。途上国におけるESD実践、またその評価のあり方について、多くのヒントを提供しています。好事例集として2007年に発行された『Tales of Hope』の続編にあたります。

ACCUショップからお求めいただけます。
<http://www.accu.or.jp/jp/shop/kyouiku/index.html>
 英文、A5判 191ページ、1,050円(税込み価格)